

電子ファイリングシステムにおける ファイリング体系の一考察

4Y-6

田中 康子 , 上原 慶子 , 吉野 緑

(富士通株式会社)

1. はじめに

OA化の進展に伴い、各種資料のファイリングも、紙と事務什器をベースにした人手によるものから、光ディスク等を利用した電子ファイリングシステムへ移行されつつある。

しかし、現状の電子ファイリングシステムでは、構築可能なファイリング体系が固定化されているため、以下のような問題がある。

- ・ 人手によって構築されていたファイリング体系のまま移行できないので、移行時に新しいファイリング体系を考えなければならない、工数がかかる。
- ・ 資料の検索方法が限定されているため、融通がきかない。

上記の問題の一解決案として、電子ファイリングシステムのファイリング体系の構成法の改善に着目した。

本稿では、人手によるファイリング体系との親和性の観点から考察したので報告する。

以上をまとめると図1のようになる。

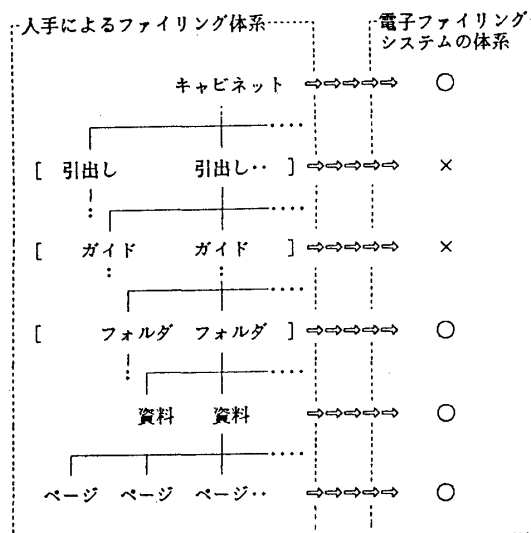


図1 ファイリング体系の対応関係

2. ファイリング体系と検索方法

2.1 ファイリング体系

人手によるファイリング体系と現状の電子ファイリングシステムでのファイリング体系の違いを以下に示す。

(1) 人手によるファイリング体系

人手によるファイリング体系は、通常、以下のよう
に考えられる。

- ・ 引出し、仕切り (以降ガイドと呼ぶ) , フォルダ等を利用し、資料を分類整理して保管する。
- ・ 分類整理をせず、直接資料を保管する。
(個人資料や雑資料等を積んでおくだけ)

(2) 電子ファイリングシステムでの体系

現在、市場にある電子ファイリングシステムの体系のほとんどが、キーワードによる検索を基本として作られているため、キャビネット内のフォルダを分けることが唯一の分類整理である。

2.2 検索方法

人手による検索と電子ファイリングシステムによる検索の大きな違いは、目的の資料を探すまでの絞り込みの手順である。

以下に両者の違いを示す。

(1) キャビネットの絞り込み

- ・ 人手による検索の場合、絞り込むキャビネットの数は一個以上である。すなわち、キャビネットがきちんと管理されていれば、キャビネットは一意に決るが、管理が曖昧であったり同一種類の資料が複数キャビネットに渡って保管されているような場合は、複数個のキャビネットに渡って資料を探す。
- ・ 電子ファイリングシステムでは、通常、キャビネットを一意に決め、目的のキャビネット内のみ検索する方法を採用している。

- (2) 引出し、ガイド、フォルダの絞り込み
 - 人手による検索の場合、キャビネット内が分類整理されていれば、必要に応じて引出し、ガイドあるいはフォルダを絞り込む。
 - 電子ファイリングシステムでは、引出しやガイドがないため、通常フォルダを一意に決めなければならない。

(3) 資料の絞り込み

(1)あるいは(2)で確定している入物の範囲内で資料を検索する。

- 人手による検索の場合、直接資料を見たり、フォルダの目次等を見て目的の資料を探す。
- 電子ファイリングシステムでは、資料に付加された一個以上のキーワードをもとに検索を行う。

3. 電子ファイリングシステムの要件と改善案

使い易い電子ファイリングシステムに求められる要件及び改善案を示す。

- (1) 要件 : 人手によるファイリング体系をそのまま電子ファイリングシステムに移行できること。

改善案 : 引出しやガイド等の概念を取込んだファイリング体系及び検索機能を提供する。

これにより、分類整理して資料を整然と保管しているユーザはスムーズな移行ができる。

- (2) 要件 : きちんとした分類整理を設けて保管されていなくても資料を検索できること。

改善案 : 資料には、固定的な意味付け(資料名, 作成日等)を持たせたキーワード以外に、自由な意味付けを持たせるフリーキーワードを付加できるようにする。

- (3) 要件 : 業務の特性にあわせたファイリング体系を設定できること。

改善案 : キャビネットのみでなく、引出し単位でファイリング体系を構築できるようにする。これによりシステムに柔軟性を持たせる。

- (4) 要件 : 広範囲にわたる検索が効率良く行えること。特にキャビネットが多い場合、適切なキャビネットを選択できること。

改善案 : 複数キャビネット検索を提供する。また、キャビネットにキーワードや注釈等を付加し、キャビネット自体の検索も可能とする。

(1)の要件を満足した場合のファイリング体系の移行例を図2に示す。

—人手によるファイリング体系—

ガイド1	ガイド2	フォルダ	資料
調査資料	装置	周辺機器	50種類 500枚
		制御装置	50種類 500枚
設計資料	OS	汎用OS	10種類2000枚
		専用OS	10種類2000枚
	設計書	基本仕様	20種類 200枚
		機能仕様	50種類 500枚
開発環境	開発規約	20種類 100枚	
	開発支援	10種類 200枚	

—現状のシステムでのファイリング体系—

フォルダ	資料
調査資料	170種類5000枚 〔周辺機器, 制御装置, 汎用OS, 専用OSの資料〕
設計資料	100種類1000枚 〔基本仕様, 機能仕様, 開発規約, 開発支援の資料〕

ガイド1をフォルダに対応付け、ガイド配下の資料を一括管理する。フォルダ内の多量の資料をキーワード検索するため、検索効率が悪。

—改善されたシステムでのファイリング体系—

ガイド1	ガイド2	フォルダ	資料
調査資料	装置	周辺機器	50種類 500枚
		制御装置	50種類 500枚
設計資料	OS	汎用OS	10種類2000枚
		専用OS	10種類2000枚
	設計書	基本仕様	20種類 200枚
		機能仕様	50種類 500枚
開発環境	開発規約	20種類 100枚	
	開発支援	10種類 200枚	

ガイドやフォルダをそのまま対応付ける。ガイドやフォルダを適当に絞り込んでから、キーワード検索により資料を求めることができるので検索効率は良い。

図2 ファイリング体系の移行例

4. おわりに

今回は、ユーザが構築したファイリング体系をスムーズに移行し、運用することに重点を置いて考察した。更に、電子ファイリングシステムを使い易くするために、型にはまった検索手順を踏まず、曖昧な指示により目的の資料を探せるようAI的な手法を取り込んだ検索についても考察してみたい。

以上